

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町 京都大学教育学部図書室 (竹村心気付)

TEL 075-751-2111 (内3013)

京都学園大学図書館の現状と課題

大 館 和 郎

現在の京都学園大学図書館は昭和56年9月に開館した。私がこの図書館に勤務したのが同年10月からなので、それ以前の旧館時代は直接知らない。それで細かいところまで新旧の比較はできないことはあらかじめことわっておきたい。現在の図書館(以後新館と呼ぶ)は鉄筋コンクリート造3階建の独立棟で延面積2,482㎡あるが、旧館は既存の学舎1階の一部をつかっており延面積417㎡であった。従来スペースや配置の極端な制約のため不十分であったサービス活動は、新館の開館により条件が整うので大学図書館としての機能発揮が期待された。まず(1)冷暖房・備品などによる快適な読書環境とともに、閲覧座席数が約3倍(100 →)となり、(2)利用空間の拡大によって、開架図書(16,000 → 21,000冊)や展示雑誌数(120 → 300タイトル)の倍増とともに、学生への貸出冊数(1回2冊→5冊)の拡大が可能になった。(3)旧館時代には、書庫と開架に資料が分散され、文献検索は職員の経験と勘にたよっていたときいている。新館移転に伴い一次資料の整備がおこなわれ必要な資料がすぐとり出せるようになった。(4)また文献検索に必要な目録類が編集され、どうにか図書館としての体制が整ったばかりだった。

より充実したサービスが提供できるために次の課題がたてられた。1. 選書方針の確立 2. 二次資料の収集 3. カウンター業務の充実 4. 整理業務の合理化。

当時から8年たった現在この課題は達成されたのだろうか。(この間に図書館をとりまく情勢は大きく変化した。昭和58年4月には大学の隣に京都文化短期大学が開学し、図書館が共用となった。そして本年4月には法学部が開校された。)具体的に各項目を検証してみることにする。

1. 選書方針の確立

具体的に成文化された選書方針は現在までできていない。経済学部図書の場合、毎年図書委員会がその年の重点分野を決定してきた。長期的にみたら蔵書構成のバランスがとれてゆくのかもしれないが、やはり一貫した基本方針のもとに有機的に蔵書が構成されてゆくといった理想にはほど遠い。新刊本はほとんど職員が選書しているが、専門知識の不足からくる限界はいかんともしがたい。教員からの協力が強く望まれる。短大図書の選書はほとんど図書委員会がおこなっているが、シリーズ本の欠号に対する迅速な対応ができていない。そして本年4月法学部が開校したのに伴い図書委員会は合同となった。現段階にお

いては統一的な選書方針はまだ確立されそうにもない。

2. 二次資料の収集

当図書館は一次資料の蓄積の少ないのをカバーするため目録類はかなり積極的に収集してきた。特に経済学分野に関してはできるだけ幅広くそろえるように努め、さらに図書や雑誌の巻末文献目録の再編集による利用も計画したが、現在は中断されている。

3. カウンター業務の充実

カウンター業務は資料と利用者を結ぶ、極めて重要な業務である。しかし現在専任の職員はおいていない。利用者指導として毎年春に新入生図書館ガイダンスをおこなってきた。その結果、目録カードをひく学生が多くなった。しかし貸出冊数は他の同規模の大学図書館と比べるとかなり少ない。学外相互協力サービスの利用者も少ない。カウンター業務に関していえば、あまり改善はなされていないというのが実情である。

4. 整理業務の合理化

現在のところ手作業で行なっているが、資

料の受入量の増大においつかない状態である。早急に機械化を考えなければならない。昨年度からJ-BISCをプリンターに打ち出したものを利用して和書目録カードを作っているが、カード目録そのものの廃止に向けて考えなければならない時期がきている。整理業務においてはほとんど改善されておらず、受入冊数が増加した分、他の業務に手がまわらないという状態である。

新館ができてから8年目のこの現状を直視するならば問題点をしぼって対策をたてなければならない。今まで触れなかったが書庫スペースの問題がある。当初の計算では20年もつだろうということだったのだが、すでに満杯状態である。年間の増加冊数が予測より増えたのと、法学部設置まで考えていなかったことによる。したがって当面の課題として、

1. 図書館増築 2. 図書館業務の機械化

があげられる。その時までいかに現在のレベルを維持してゆくかといういわば守勢に立たされているのが今の職場の現状である。

(京都学園大学図書館)

京都の大学図書館訪問記 1

京都市立芸術大学図書館

大図研京都支部の創立20周年の記念になり、何か大学図書館員が役に立つものをつくりたいということで始めた年報『京都の大学図書館』づくり。

その作成過程を大事にしようと企画したのが、この京都の大学図書館の見学・調査のとりくみです。編集委員のいない大学を出来るだけ訪問しようということで最初に京都市立芸術大学図書館へ行きました。

場所は国道9号線沓掛を少し入った西山丘陵の北の端。図書館は正門入口の正面の最初の建物にある複合施設である。学内の位置としてはすぐ近くに食堂と談話室が渡り廊下をへだててあり、利用者にとっては日常生活で

最も便利なところにある。

図書館と博物館との機能がひとつになっており、芸術系大学図書館らしい最大の特徴がみられる。学生数が少なく、専門性も最初から明確なため、専攻教室単位での授業方法やまとまりに重きがあるのか、図書館はコンパクトになっている。環境の良い閲覧室は天上も高く、百席余りの木製つくえに柔らかい採光が心地よい。訪問した日は少し風が強く、天窓で風笛が吹かれていたのは面白かった。開架冊数1万冊で予算が少ないこともあり、芸術系の図書が中心の蔵書で工夫がなされているが、一般教養の図書・専門外の図書が乏しいのは少し気掛かりだった。利用者は比較

的少ない。コレクションは内容まで見れなかったのだが、貴重なスコアが袋に入れられていて保存されていることや日本の古い芸術関係の資料があったことが目に止まった。博物館施設の杉張り貴重書庫には、OBの福田平八郎氏等の作品や卒業作品、東南アジアの民俗資料がところ狭しと保存されているのは圧巻だった。これらの作品が専門の学芸員の人によって、テーマ編集企画され、年は数回常設施設で市民にも公開・展示されているのはさすがである。体制は全員で5人という規模であり、人事の点では、学芸員に比して、図

書館員は一般行政の人事原則（3－5年）で異動があり、定着性が弱い、市立の公共図書館の経験ある司書が配置されれば、若干の救いがあると思われたがどうか……。落ち着いた雰囲気は良いのだが、少し活気が感じられないのが気掛かりである。大図研の組織化を及ぼせたいひとつであろう。2人の女性図書館員と学芸員の方の丁寧な応対に感謝して門を出た。

（89.3.18

年報『京都の大学図書館』

編集委員会 若井記）

収書・選書論ゼミ報告

前回の報告いらい大変長いこと御無沙汰してしまいました。忙しさに紛れてついサボッていました。申しわけありません。人事異動等のためメンバーにすこし移動はありましたが、兎に角その後続いています。

前回ご報告しましたように、メンバーが全員素人のため、ゼミとはいうものの読書会か勉強会といった感じでやっています。やはり講師の先生が現場にいないため、なかなかゼミ運営が大変です。

月1回第1土曜日の午後3時から5時までということで始めましたが、秋から1時間のばし6時までにし、1時間は自館の実態報告または何か紹介・報告すべき事柄・論文等についておこない、あと2時間をテキストによる勉強に当てることにしました。

イノックプラット公共図書館の収書方針は訳文が非常に読みづらく閉口しましたが、ブルックリンの方は読みやすく、内容も分かり易いので好評でした。選択が図書という形態に偏ること、フィクションなどを避けたがることなど我々にも痛い指摘で反省させられました。

こうした参考文献に上げられたものを少し

読んでみて、やはりもっと詳しいものを読まないとは本当には分からないのではないかということを感じました。それでなお一層先生の『アメリカにおける図書選択論の学説的研究』を読もうという機運が強まり、ついに今年からそれに取り組むことになりました。第1回目をやってみて、メンバーは皆内容に引き付けられ、面白いという感想でした。第2回目には先生が『図書館界』に発表された論文「J. H. ウェラードと図書館選択論」と「L. R. マッコルヴィンの図書選択理論」を紹介しようかと思っています。

なお将来、メンバーが所属する図書館の収書方針をそれぞれ作成してみても発表討論してはどうかという意見が出ています。

簡単ですが以上でその後の報告とします。これからもよろしくご指導ください。

第1回 88. 1.30. 自己紹介および今後の運営について

第2回 2.13. 立命における収書実態（生協書籍部の問題を含む）

第3回 3.12. 「蔵書構成と図書選択」

- 第1章～第3章
- 第4回 88. 4. 9. 第4章～第5章
- 第5回 5.28. 第6章
- 第6回 7. 2. <特別報告> アメリカの図書館見学(スライド)
- 第7回 10. 1. 第7章と収書方針実例
東京都立中央とイノック
プラット公共図書館
- 第8回 11.12. (続)実例
1. イノックプラット公共図書館(続)
2. ブルックリン公共図書館
付. 同志社の収書システム
- 第9回 12.10. 1. 「大学図書館蔵書論」 堀内郁子
『Library science』
No.2 (1964)
2. 「大学図書館-研究室図書館の蔵書分担収集-D F G 勧告とMarburg 大学の協定制-」 河井弘志
『図書館界』
Vol. 25 No.1
(1973)
- 第10回 89. 1. 7. 1. 橘女子大の収書実態 付 京大経済図書館収書実態
2. 「アメリカにおける図書選択論の学説史的研究」
はじめに～第2章第1節
- (予定)第11回 2.18. 第2章第2節と第3節および第2章のまとめ
(1989. 1. 16 竹本文夫)

拝復

ゼミの詳細な経過報告をありがとうございました。皆さんの熱意に、なんだか圧倒されました。私自身が関西にいたのでしたら、ちよくちよくお会いして、情報交換もできるでしょうが、それも叶わず、申し訳ありません。

ゼミナールというのを、一体どのように運営したらいいのか、私もよくわかりません。自分の経験したわずかなことで判断するしかないのですが、たとえば経済学などのゼミはかなり厳しいやりかたをしているやに聞きます。

私は立教大学で、ゼミのまねごとをしていますが、あまりいい方法ではなさそうです。(あらかじめ、その領域のトピックをリストにして、そのなかから出席者にテーマを自由に選ばせ、毎時間1テーマを1～3名のグループに担当させ、協議のうえ分担発表させます。リストには基本文献を列挙しておきますので、それは必ず読んでこななければいけません。まあまあ、そこそこにやってくれますが、発表者以外は全く予習してきませんので、質問、意見はでてきません。近頃は指名して質問させます)

来学年は、前期に従来通りの方法で、領域全体の輪郭を理解させたあとで、夏休み以後は、各人まったく自由にテーマを選ばせ、学年度末に30枚程度の論文を提出させることを前提として、毎時間、研究の中間発表をさせるつもりです。やはり自分で選んだテーマについて、いくらか「研究」する経験をもたせたほうが、認識、意識が深まると思います。テーマ自由選択とすれば、各人の興味が生かされ、積極性もでてくるでしょう。ハテどこまでやれますか……。

さて京都のゼミの場合ですが、全体の流れはまず妥当な線ではないかと考えます。文献の総量が少ないので、文献による研究には限度があり、つらいところですね。私の『アメリカ図書選択論史』をテキストに使っていただいているとか、どの程度お役にたてるかわ

かりませんが、皆さんにひととおり読んでただけるといのは、私としては大変嬉しいことです。ご批評をお聞かせいただくとありがたいのですが、同書については、近日中に『図書館学会年報』に川崎良孝氏の、かなり手厳しい論評が掲載されます。直接にはあまり参考にならない（氏は図書館史の面から論評していますので）かもしれませんが、一度ご覧いただくといいかと思ます。

日本図書館学会が刊行する『論集』の今年のテーマは、現代図書選択理論で、私が編集を担当するというので、現在執筆をおねがいしていますが、これが刊行されたら、またゼミの討論の材料になると思います。8月頃には日外アソシエーツから発行されます。これでは、1970～88年のあいだに発表された論文を論評し、独自の理論を提起していただくことになっています。

東京中心の「図書館資料研究会」のメンバーは、現在、ALAのGuidelines for Collection Developmentを翻訳してJLAから出版する作業を進めていて、今朝もその素訳原稿を点検したところです。なかなか大変です。

私立大学協会の職員研修会では、昨年夏仙台で、分担収集・保存の問題がとりあげられました。私もお話をさせられました。いずれ報告書にテープ起しが掲載されるでしょう。ご参考になるかならぬか……。

先日、私立大学図書館協会の東海地区から、6月頃に収集問題の研修会を開く、という連絡をいただきました。

私は以前から、アメリカの Subject Bibliographer (Subject Specialist) 制度、ドイツの Fachreferent 制度にたいへん興味をいただいています。時間がなくてまだ手をつけていません。皆さんの手で研究（概略の紹介でもいい）していただくと有難いのですが。

公共図書館関係では、杉並区立中央図書館の蔵書評価を現在行っていて、3月には報告書を出さねばならないことになっています。また東京都立多摩図書館の蔵書評価は、私一人がひきうけてしまって、学生数名の協力をうけながら、現在作業中です。これも3月までに報告書をまとめなければなりません。大学図書館ではまだシステムティックな蔵書評価を行った例はないようですが、どこかの図書館を例にとって、共同で蔵書評価をおこなうと、けっこう面白いだろうと考えます。私も実際やってみて、大変ではあるけれども、いろいろ教えられることが多く、その意義をあらためて認識させられました。

要をえないことを書きつらねました。皆さんのご研究の成果を期待します。よろしくお伝えください。

(1989. 2. 1 河井弘志)

情報検索演習『Current Contents®の使い方(1)』

Current Contents®は、学術雑誌の最新号の目次を、Institute for Scientific Information®(ISI®)社が入手し、毎週発行している目次誌である。

以下の問い合わせを解決していく中で、Current Contents®の概略をつかもう。

.....

次のような問い合わせが事務室からあった。

著者あて別刷り請求のがきがきた。
宛名は次の通りであった。

T. Hamamura

Kyoto Univ. Fac. Pharmaceutical
Sci.

いくつかの講座に照会したが該当者はいなかった。

裏面を見たところ、Brain Research v. 483 p. 78 との記載がある。適切な宛て先を教えてください。

.....

現物にあたればよいのだが、今回はCurrent Contents®を用いる。

たとえば京都大学附属図書館のCurrent Contents®を展示してある場所にいってみよう。7部門のCurrent Contents®が並んでいる。

7部門とは次の通りである。

- ・ Agriculture, Biology & Environmental Sciences.
- ・ Arts and Humanities.
- ・ Clinical Medicine.
- ・ Engineering Technology and Applied Sciences.
- ・ Life Sciences.
- ・ Physical, Chemical and Earth Sciences.
- ・ Social and Behavioral Sciences.

各部門とも収録対象誌が異なるので、どの部門のCurrent Contents®をみるかが問題となる。各部門についての収録雑誌リスト(List of Journals and Publishers' Addresses Presently Covered in Current Contents®/(部門名))が年2回、各部門のCurrent Contents®誌上にそれぞれ掲載されるので、これをチェックするとよい。なお、このリストが掲載されている号のCurrent Contents®の背表紙には『LIST』と記載がある。Current Contents®のLife Sciences編の収録雑誌リストをみると、Brain Researchが、この部門の対象雑誌になっていることがわかる。(図1)

では、Current Contents®のLife Sciences編のうち、どの号からみて行けばいいか。毎週でてくるCurrent Contents®をみていけばいいのだが、Brain Researchは、年間80 issuesあまり発行されており、今回必要なBrain Research v. 483が、どの号のCurrent Contents®に掲載されているか、早く見つける方法があればよい。

『Triannual Cumulative Journal Index and Complete List of Journals Covered』は、各部門のCurrent Contents®の既に発行された号のどこに、何という雑誌の何号の目次が掲載されているかを、早く知るのに便利である。このIndexは年3回各部門のCurrent Contents®誌上に掲載される。1月～4月、5月～8月、9月～12月に分け、各期間に収録した目次を探しやすいように、索引化している。なお、このIndexが掲載されている号のCurrent Contents®の背表紙には『INDEX』と記載されているので、探しやすい。

てもとにあるCurrent Contents®のLife Sciences編をみていくと、いちばん新しい

『INDEX』は、Current Contents® / Life Sciences 編の v. 32 No 4 (1989) に掲載されていた。それは、1988年9月～12月を対象としていた。この期間には、Brain Research v. 483 は、収録されていなかった。(図2)

『INDEX』は、現在のところ、これより後はないので、Current Contents® の毎号の目次をみる以外にない。

Current Contents® の毎号の目次には、『Journals Appearing in this issue』という欄があり、その号の Current Contents® に収録している雑誌名と、その巻号を雑誌名のアルファベット順に並べ、その左横に、目次を掲載しているページが記されている。Current Contents® / Life Sciences 編の v. 32 No 17 に Brain Research v. 483 (1) (2) の目次が掲載されていることがわかる。(図3)

Current Contents® / Life Sciences 編の v. 32 No 17 の 213 ページを開けてみよう。Current Contents® の本文ともいうべき雑誌の目次の掲載ページはこのようになっている。(図4)

Brain Research v. 483 p. 78 のところをみたが、著者の連絡先までは載っていないか

った。

著者への連絡先等までかわるのは、Current Contents® の各号末尾にある『Author Index and Adress Directory』である。この索引は文献の第1著者からのみ、検索できる。著者名の右には当該雑誌の目次の掲載されているはじめのページが記されている。(著者の文献は、そのページに記載されているとは限らない。目次は2～3ページにわたって掲載されている場合もあるからである。)著者名の下には、著者の連絡先が書かれている。

T. Hamamuraは、Brain Research v. 483 p. 78 の論文の第一著者であった。(図4) ことから、Hamamura, T で『Author Index』に見出しとして掲載されている。(図5) 名前の下に連絡先が載っていた。OKAYAMA UNIV. SCH. MED. …… これで問い合わせに答えられる!

《文献》

以上の記述は、徳島大学附属図書館蔵本分館編『ライフ・サイエンス関係文献解説集』によるところが大きい。ありがとうございました。

LIST OF JOURNALS AND PUBLISHERS' ADDRESSES PRESENTLY COVERED IN CURRENT CONTENTS®/LIFE SCIENCES

THIS LIST IS NOT DEFINITIVE. NEW JOURNALS ARE CONSTANTLY BEING ADDED. SUGGESTIONS FOR ADDITIONS TO OUR JOURNAL COVERAGE ARE WELCOME.

ACCOUNTS OF CHEMICAL RESEARCH AMER CHEMICAL SOC, 1155 SIXTEENTH STREET N W, WASHINGTON, DC 20036	ACTA PAEDIATRICA SCANDINAVICA ALMQVIST & WIKSELL PERIODICAL CO, PO BOX 638, S-101 28 STOCKHOLM, SWEDEN	AMERICAN JOURNAL OF CLINICAL PATHOLOGY J B LIPPINCOTT CO, EAST WASHINGTON SQUARE, PHILADELPHIA, PA 19104
ACP-APP P JOURNAL BRAIN RESEARCH ELSEVIER SCIENCE PUBLISHERS BV, PO BOX 211, 1000 AE AMSTERDAM, THE NETHERLANDS	ACTA PATHOLOGICA JAPONICA JAPAN PATHOL SOC, JKEI UNIV SCHOOL OF MEDICINE, DEPT PATHOL MINATO-KU, MITSUBISHI-CAMPUS, TOKYO 108, JAPAN	AMERICAN JOURNAL OF CHILDREN ELSEVIER SCIENCE PUBLISHERS (USA), 1250 SIXTH AVENUE, SAN DIEGO, CA 92101
BEHAVIOURAL PROCESSES ELSEVIER SCIENCE PUBLISHERS BYBIO MEDICAL DIVISION, PO BOX 1527, 1000 BW AMSTERDAM, THE NETHERLANDS	BIOLOGIA BUTENIC, SOCIETAS JUGOSLAVICA DE SCIENTIIS, PO BOX 107, 11000 GUILDFORD, SURREY, ENGLAND	ANIMAL AND LANGUAGE ACADEMIC PRESS INC (USA), 1250 SIXTH AVE, SAN DIEGO, CA 92101
BIO-TECHNOLOGY NATURE PUBL CO BIO-TECHNOLOGY, 65 BLEECKER ST, NEW YORK, NY 10012	BIO MEDICA BIOCHIMICA ACTA AKADEMIE-VERLAG, LEIPZIGER STRASSE 3-4 POSTFACH 1233, DDR-1080 BERLIN, GER DEM REP	BRAIN BEHAVIOR AND EVOLUTION S KARGER AG, ALLSCHWILERSTRASSE 10, CH-4009 BASEL, SWITZERLAND
BIOCHEMICAL AND BIOPHYSICAL RESEARCH COMMUNICATIONS ACADEMIC PRESS INC (USA), 1250 SIXTH AVE, SAN DIEGO, CA 92101	BIO MEDICAL AND ENVIRONMENTAL MASS SPECTROMETRY WILEY HEYDEN, BAFFINS LANE CHICHESTER, SUSSEX PO19 1UD, ENGLAND	BRAIN RESEARCH ELSEVIER SCIENCE PUBLISHERS BV, PO BOX 211, 1000 AE AMSTERDAM, THE NETHERLANDS

CURRENT CONTENTS® ©1989 by ISI®

LS, V. 32, #1, Jan. 2, 1989

23

(1)
LIST OF JOURNALS

Current Contents®
Life Sciences 編
1989年 32巻1号
より

JOURNAL VOL. ISSUE	CC NO/P5	JOURNAL VOL. ISSUE	CC NO/P5	JOURNAL VOL. ISSUE	CC NO/P5	JOURNAL VOL. ISSUE	CC NO/P5	JOURNAL VOL. ISSUE	CC NO/P5
BIOMED BIOCHEM ACTA COWT 47 # 7..... 47/ 101 8..... 51/ 207		BONE 9 # 4..... 41/ 167 3..... 48/ 177		BRIT J NUTR 60 # 1..... 39/ 226 2..... 50/ 263		CAN J MICROBIOL 34 # 5..... 41/ 101 6..... 45/ 98 7..... 44/ 86 8..... 48/ 103 9..... 49/ 86 10..... 50/ 101		CARDIOVASC RES 22 # 6..... 38/ 169 9..... 43/ 178 10..... 46/ 180 11..... 50/ 166	
BIOMED ENVIRON MASS SPECTROM 16 # 1-12..... 31/ 46 17 2..... 36/ 34 3..... 40/ 41 4..... 45/ 37 5..... 49/ 47		BONE MARROW TRANSPLANT 3 # 4..... 36/ 81 1986S1..... 37/ 88		BRIT J OBSTET GYNAECOL 95 # 8..... 39/ 182 9..... 44/ 197 10..... 47/ 134 11..... 51/ 247		CAN J NEUROL SCI 13 # 3..... 40/ 285		CARIES RES 22 # 5..... 45/ 175 6..... 51/ 185	
BIOMED PHARMACOTHERAPY 42 # 5..... 44/ 182		BONE MINER 4 # 3..... 37/ 130 4..... 43/ 182		BRIT J OPHTHALMOL 72 # 8..... 38/ 204 9..... 46/ 225 10..... 49/ 208 11..... 50/ 211		CAN J PHYSIOL PHARMACOL 66 # 6..... 37/ 78 7..... 38/ 115 8..... 42/ 112 9..... 46/ 124 10..... 50/ 123		CARLSBERG RES COMMUN 53 # 5..... 48/ 65	
BIOMED RES 9 # 4..... 40/ 194 5..... 47/ 111		BRAIN 111 # AUG/PS..... 40/ 287 OCT/PS..... 51/ 279		BRIT J PHARMACOL 95 # 1..... 40/ 119 2..... 45/ 110 3..... 50/ 114 OCTS..... 47/ 82		CAN J ZOOL 66 # 7..... 36/ 240 8..... 40/ 293 9..... 42/ 225 10..... 49/ 239		CELL 54 # 4..... 38/ 77 5..... 39/ 78 6..... 41/ 88 7..... 44/ 76 8..... 46/ 90 9..... 48/ 89 10..... 49/ 80 11..... 51/ 110	
BIOMETRICS 44 # 3..... 42/ 42		BRAIN BEHAV EVOL 32 # 1..... 38/ 233 2..... 45/ 263 3..... 49/ 234		BRIT J PHIL SCI 39 # 2..... 38/ 36 3..... 47/ 32		CAN MED ASSN J 179 # 3..... 36/ 124 4..... 38/ 175 5..... 40/ 206 6..... 42/ 165 7..... 45/ 194 8..... 46/ 195 9..... 49/ 188 10..... 51/ 218		CELL BIOPHYS 5 # 4..... 48/ 99 6..... 49/ 80 7..... 51/ 110	
BIOMETRIKA 73 # 3..... 45/ 29		BRAIN COGNITION 8 # 1..... 36/ 169 2..... 48/ 237		BRIT J PSYCHIAT 153 # AUG..... 39/ 208 SEP..... 49/ 228 OCT..... 49/ 229 SEPS3..... 50/ 252		* CANC DRUG DEL 62 # 5..... 39/ 133 6..... 43/ 131 7..... 126		CELL BIOPHYS FUNCT 8 # 4..... 45/ 68	
BIOPROG CHEM 16 # 3..... 45/ 79		BRAIN DEVELOP 19 # 4..... 41/ 234 5..... 49/ 237		BRIT J RADROL 61 # 72B..... 36/ 148 72A..... 41/ 214 730..... 46/ 231 731..... 50/ 215		CANCER 62 # 5..... 39/ 133 6..... 43/ 131 7..... 126		CELL BIOL INT REP 12 # 7..... 37/ 47 8..... 45/ 105 9..... 48/ 105	
BIOPROG ICHIM 14 # 3..... 39/ 39 7..... 39/ 40 8..... 48/ 70 9..... 51/ 83		BRAIN LANG 35 # 2..... 43/ 244 3..... 49/ 224		BRIT J SURG 75 # 6.....				CELL BIOL TOXICOL 4 # 3..... 42/ 94	
BIOPHARM DRUG DESPOS 9 # 5..... 45/ 125 6..... 50/ 113		BRAIN RES 457 # 1..... 37/ 146 2..... 38/ 226 3..... 39/ 199 4..... 39/ 200 5..... 40/ 263 6..... 42/ 200 7..... 42/ 27 8..... 9.....						CELL BIOPHYS 13 # 2..... 40/ 93	
BIOPHYS CHEM 30 # 3..... 40/ 59 31 1-2..... 46/ 77 3..... 53/ 85								CELL CALCIUM 9 # 4..... 40/ 112	

(2)
Triannual Cumulative Journal Index

Current Contents®
Life Sciences 編
1989年 32卷 4号
より

JOURNALS APPEARING IN THIS ISSUE:

149 ACTA ENDOCRINOL.120 (3), MAR	162 C R SOC BIOL.182 (4)
96 ACTA HISTOCHEM CYTOCHEM.21 (6)	100 CAN J MICROBIOL.35 (2), FEB
201 ACTA ORTHOP SCAND.60 (1), FEB	240 CAN J ZOOL.67 (2), FEB
198 ACTA PAEDIAT SCAND.78 (2), MAR	127 CANCER CHEMOTHER PHARMACOL.23 (5)
173 ACTA PATHOL JPN.39 (2), FEB	142 CANCER IMMUNOL IMMUNOTHER.28 (4), APR
231 ACTA PSYCHIAT SCAND.79 (3), MAR	187 CARDIOLOGY.76 (1), JAN-FEB
126 AGENT ACTION.26 (3-4), MAR	116 CARDIOVASC DRUG THERAPY.3 (1), MAR
163 AMER J ANAT.184 (2), FEB	86 CELL.56 (6), MAR 24
208 AMER J EPIDEMIOI.129 (4), APR	101 CELL STRUCT FUNCT.14 (1), FEB
77 AMER J HUM GENET.44 (4), APR	39 CHROMATOGRAPHIA.26 (1988)
193 AMER J OBSTET GYNECOL.160 (3), MAR	43 CHROMATOGRAPHIA.27 (3-4), FEB
204 AMER J ROENTGENOL.152 (4), APR	52 CLIN CHIM ACTA.180 (2), FEB 28
207 ANAESTHESIA.44 (4), APR	159 CLIN EXP HYPERTENS A-THEOR.11 (2)
32 ANAL CHEM.61 (7), APR 1	202 CLIN EXP RHEUMATOL.7 (1), JAN-FEB
67 ANAL LETT.22 (1)	135 CLIN IMMUNOL IMMUNOPATHOL.51 (1), APR
56 ANN CLIN BIOCHEM.26 (MAR)P2	192 CLIN NEPHROL.31 (3), MAR
206 ANN MED.21 (1)	115 CLIN PHARMACOKINET.16 (3), MAR
104 ANTON LEEUWENHOEK J MICROBIOL.55 (1)	113 CLIN PHARMACOL THER.45 (3), MAR
105 ANTON LEEUWENHOEK J MICROBIOL.55 (2)	57 CRIT REV BIOCHEM MOLEC BIOL.24 (2)
161 ARCH ANDROLOGY.22 (1)	185 DEUT MED WOCHENSCHR.114 (12), MAR 24
64 ARCH BIOCHEM BIOPHYS.270 (1), APR	155 DEVELOP GROWTH DIFFER.31 (1), FEB
200 ARTHRITIS RHEUM.32 (3), MAR	229 DEVELOP PSYCHOBIOL.23 (3), APR
102 BIO-TECHNOLOGY.7 (4), APR	169 DIABETE METAB.15 (1), JAN-FEB
84 BIOCHEM GENET.27 (1-2), FEB	189 DIABETES CARE.12 (4), APR
50 BIOCHEM J.258 (3), MAR 15	127 DRUG DEVELOP IND PHARM.15 (3)
49 BIOCHIM BIOPHYS ACTA.973 (3), MAR 23	120 DRUG DEVELOP RES.16 (2-4)
50 BIOCHIM BIOPHYS ACTA.979 (3), MAR 13	115 DRUG METAB DISPOSITION.17 (2), MAR-APR
57 BIOCHIMIE.71 (2), FEB	112 DRUGS.37 (3), MAR
53 BIOL CHEM HOPPE-SEYLER.370 (3), MAR	230 ELECTROENCEPHALOGR CLIN NEURO.74 (2)
228 BIOL CYBERN.60 (5)	151 ENDOCRINOLOGY.124 (4), APR
167 BIOL REPROD.40 (2), FEB	103 ENZYME MICROB TECHNOL.11 (4), APR
171 BIOMED PHARMACOTHERAPY.43 (1)	226 EPILEPSIA.30 (2), MAR-APR
54 BIOPHYS J.55 (4), APR	229 EUR ARCH PSYCHIAT NEUROL SCI.238 (3)
180 BLOOD REV.3 (1), MAR	145 EUR J APPL PHYSIOL OCCUP PHYS.58 (5)
132 BONE MARROW TRANSPLANT.4 (JAN)S1	89 EUR J CLIN MICROBIOL INFECT D.8 (3), MAR
131 BONE MARROW TRANSPLANT.4 (2), MAR	123 EUR J MED CHEM.24 (1), JAN-FEB
213 BRAIN RES.483 (1), MAR 27	106 EUR J PHARMACOL.161 (2-3), FEB 28
215 BRAIN RES.483 (2), APR 3	224 EUR NEUROL.29 (2), MAR-APR
238 BRAIN RES REV.14 (1), JAN-MAR	73 EVOLUTION.43 (2), MAR
183 BRIT J EXP PATHOL.70 (1), FEB	237 EXP BRAIN RES.75 (1)
31 C R ACAD SCI SER III-VIE.308 (11), MAR 16	219 EXP NEUROL.104 (1), APR

CONTINUED

CURRENT CONTENTS® ©1989 by ISI® LS, V. 32, #17, Apr. 24, 1989

(3)
Journals Appearing in this Issue.

Current Contents®
Life Sciences 編
1989年 32卷 17号
より

Research Reports

Effect of exogenous pyruvate on acrylamide neuropathy in rats (BRE 14327)
M.I. Sabri, W. Dairman, M. Fenton, L. Juhasz, T. Ng and P.S. Spencer (U.S.A.) 1

Anatomical mapping of brain stimulation reward sites in the anterior hypothalamic area: special attention to the stria medullaris (BRE 14328)
A. Blander and R.A. Wise (Canada) 12

CONTINUED

CURRENT CONTENTS® ©1989 by ISI® LS, V. 32, #17, Apr. 24, 1989 213

CONTINUED

BRAIN RES, 483(1)89

Time-dependent changes in the sensitivity of dopamine neurons to low doses of apomorphine following amphetamine infusion (BRE 14329)
T.H. Lee and E.H. Ellinwood Jr. (U.S.A.) 17

Dopamine receptors in human brain: autoradiographic distribution of D₁ and D₂ sites in Parkinson syndrome of different etiology (BRE 14330)
R. Cortés, M. Camps, B. Gueye, A. Probst and J.M. Palacios (Switzerland) 30

Substance P receptors in the human spinal cord: decrease in amyotrophic lateral sclerosis (BRE 14331)
M.M. Dietl, M. Sanchez, A. Probst and J.M. Palacios (Switzerland) 39

Effects of kainic acid lesions in rat ventral lateral geniculate nucleus upon field potentials of the superior colliculus: correlation between morphological and physiological observations (BRE 14333)
T. Nagata, Y. Tsukamoto, K. Matsuno and Y. Hayashi (Japan) 50

Effects of cervical spinal hemisection on dihydromorphine binding in brainstem and spinal cord in cat (BRE 14334)
D.A. Ramberg and T.L. Yaksh (U.S.A.) 61

Brain creatine phosphate and creatine kinase in mice fed an analogue of creatine (BRE 14335)
D. Holtzman, E. McFarland, T. Moerland, J. Koutcher, M.J. Kushmerick and L.J. Neuringer 68

Ceruletide suppresses endogenous dopamine release via vagal afferent system, studied by in vivo intracerebral dialysis (BRE 14336)
T. Hamamura, Y. Kazahaya and S. Otsuki (Japan) 78

Effect of tunicamycin, an inhibitor of protein glycosylation, on the high-affinity transport of acidic amino acid neurotransmitters in C6 glioma cells (BRE 14337)
J. Deas and M. Erecińska (U.K., U.S.A.) 84

Conditioned place aversion produced by microinjections of semicarbazide into the periaqueductal gray of the rat (BRE 14338)
G. Di Scalò 90

Different developmental patterns of (α)-casein expression in dopaminergic neurons in vitro (BRE 14339)
J.F. ... Gordon, F.S. Walsh, T.P. Flanigan, S. ... 100

Polyamine neurons can be reflexly influenced by activity in receptive fields (BRE 23429)
P. Sojka, H. Johansson, P. Sjölander, R. Lorentzon and M. Djupsjöbacka 177

Acute effects of 1-methyl-1,4-phenylpyridinium ion (MPP⁺) on purine metabolism in rat striatum studied in vivo using the microdialysis technique (BRE 23430)
M. Ballarin, J. Reiriz, S. Ambrosio, M. Camps, R. Blesa and N. Mahy (Spain) 184

CONTINUED

214

©1989 by ISI® CURRENT CONTENTS®

(図 4)
Current Contents® に
掲載された Brain Research
vol. 483 の目次

Current Contents®
Life Sciences 編
1989年 32巻17号
より

